〝猛将・窪田〟の指導で開花

創部1年あまりで県下一

めざすぞインタハイ

[illegible]国の舞台に躍り出る与論高校テニス部。次なるインタハイ出場をめざし、いま公営テニスコートで真剣な練習をくり広げている。そのクラブ誕生から今日までの歩みをレポートする（押川弘正記者）。

クラブ[illegible]

前任の鹿児島東高で「厳しい指導には定評がある」と部員に恐れられていた窪田勝男監督が与論高に赴任してきたのは六十二年春。時を同じくして与論町の観光名所・大金久海岸（通称・百合ケ浜）に県下でも初めてという人工芝（オムニコート）のテニスコート三面が公共事業で整備された。総工費約四千三百万円。周囲は防風林に囲まれ、季節風の強い冬場でもほとんど風の影響のない最高レベルのテニスコートになった。最高の環境に一流の指導者。まさに〝運命の出会い〟となった。

当時、与論高校にはテニス部はあったものの軟式庭球部。窪田監督も請われて同部顧問になったものの物足りなさを感じずにはいられなかった。その中で一年生の吉田節子さん、池田広美さんの二人が「硬式テニスをやりたい」と入部希望。窪田監督がクラブ（軟庭）をメーンにおきながら、暇を見つけて指導していったところ、南智子さんなど一年生三人が新加入。七月の生徒総会で硬式テニス部発足が論議され、現テニス部（軟庭）がそのまま硬式テニス部に生まれかわった。これが現与論高テニス部の正式発足。しかし、この時、窪田監督はB型肝炎を患い鹿児島市内の病院に入院加療中。最も重要な夏休み期間の練習は手紙と電話による間接的指導となった。

窪田監督が退院したのは八月の下旬。約三か月の闘病生活にもかかわらず豪快な怒鳴り声がコートに再びこだました。窪田監督はその時を振り返り「一年生五人に二年生四人も加わり活気があった。病院から手紙と電話で指示していたことをきちっとちゃんと実践していたのを上達ぶりで感じた。この時で県のトップにあがれる感触を得た」と話してくれた。正式創部から二か月。本格的な練習に入ったのは二学期に入ってからのこととなった。

鬼コーチの[illegible]

〝鬼コーチ〟と恐れられていた窪田監督だけに、ここでの指導もさぞ厳しいだろうと思いきや、「三百人足らずの小さな学校。部員の補充がきかない」と最初は〝人が変わった〟ような優しい指導。生徒がテニスを「楽しい」と感じ始めた頃から練習の厳しさを増していった、という。それでも最初のメンバーから二人が抜け、入れ替わりで二人が入部してきた。その年の十月。「ボールもまともに打てない状態」ながらも秋の新人戦に出場、県のテニスレベルを肌で感じとった。この大会の敗退が選手たちの闘志に火をつける結果となった。

新人戦終了後、県高校テニス界はシーズンオフに入るため窪田監督も指導法を変更、大会前のハードな練習から再び緩い練習にもどし、基礎から鍛え直していった。選手らも「強くなりたい」という闘志を前面に押し出し、時には志願してのハードトレーニングも行った。練習は平日は放課後の約二時間、土、日は四時間の練習。県本土の強豪校に比べ、練習時間は本当に短い。しかし、その中身は濃く、選手らは時間いっぱい休む間もなくたっぷりと走り回らせられる。練習内野で気づかされたのは「全部員がコートに入り、練習していること」。俗に言う〝球拾い〟がいないという点。窪田監督に尋ねると「時間の無駄、一人ひとりが一個ずつ球を持ち、これがアウトになればその場で拾いにいけばいい」と話してくれた。実際、選手らの練習を見ると実に機敏で、ボールがネットしたりオーバーすると、サッと走り再びコートに戻る。ボールも少なくて済む上、全員が時間いっぱいボールを打てる密度の高い練習が出来ることになる。もっとも部員数十四人の小さなクラブだから出来ることで、大所帯のクラブにはないメリットである。

このころ窪田監督は「かなり厳しい言葉で指導していた」（本人談）。しかし、早口の鹿児島弁であるために与論の選手たちには「意味不明」[illegible]と分かったようにうなずいていた。ひとつ面白いエピソードを聞いた。監督が選手のミスプレーに対し「何ばしょっと」（何をしているか）と大きな声で怒鳴った。怒鳴られた選手は「ミスしてどうしてほめられるのかな」と不思議がっていた。この選手には「何ばしょっと」が「ナイスショット」に聞こえたらしい。この話を聞いて監督自身大笑いしたというが、さてその後の練習では、監督が怒鳴ろうとして一瞬息をのみ、標準語に直して指導する光景がよく見られるようになった。「標準語だと迫力ないし、言葉を選ぶうちに怒る気もなくなる」と窪田監督は笑顔で話してくれた。

そして昨年春、新一年生七人が加入、クラブに活気がみなぎった。夏のインタハイ鹿県予選を前に練習も次第に熱を帯びてきた。これに合わせ〝窪田節〟も徐々にボルテージアップ。いい意味で練習に緊張感が漂っている。試合前の練習では、土曜日の午後いっぱいと日曜日の一日中、全身が汗にまみれるまでの練習となった。「鬼コーチ」の面目躍如といったところか。この頃から一般のプレーヤーがコートに顔を出し、生徒らの練習相手を買って出た。その内の一人で、自営業を営む川畑勇さんは選手の父兄の一人。川畑さんはじめ父兄の方や、一般のテニス愛好家らの与論高テニス部に対する支援は物心両面のもので、選手にとって恵まれた環境をつくっている。この夏のインタハイ県予選はベスト４入り。県内のテニス名門校を脅かし、県テニス関係者を驚かせた。そして同チームが大きく飛躍したのが、その夏の強化合宿だ。

強化合宿

与論が創部一年あまりで県大会優勝を飾ったのは夏休み期間の約三週間にも及ぶ合宿だろう。窪田監督は夏休み前、生徒とその父兄に対し「交通費プラス生活費一人二万円」を相談した。宿泊は鹿児島市内にある窪田監督の自宅。当然、窪田監督の家族は家を空けざるを得ず、奥さんの節子さんらは実家へ疎開。窪田監督も夜は選手らと寝泊まりし、選手らは自炊生活でテニスづけの夏休みを送った。合宿期間、窪田監督は徹底してフットワークを鍛えた。選手らは練習中、休む間もなく走り回らされた。現在の与論テニスの粘りはそこにある。相手に打ってみると「決まった」と思ったボールが返ってくるのだから[illegible]なテニスだ。また、この夏で窪田流の粘り強いストロークを伝授している。

ストロークの基本はボールを打つ方向に左足（右利きプレーヤー）を向けるややクローズドスタンスに振り抜くものとされているが、窪田流はオープンスタンスのまま弾き返す。これだと「ワン、ツー」のリズムでボールをたたくことが出来、素早い対応が出来る。しかもほとんどの選手がトップスピン系統（ボールを強くこすりあげ、ドライブ回転を加える打法）のボールを打つ。一打一打を見ると男子選手並みの力強いボールが返ってくる。またこの打法を覚えたことでメリットが生まれた。ハーフバウンドの処理がそれ。与論の選手はハーフバウンドのストロークが実にうまくびっくりさせられる。リターンで最も打ちづらい足もとのボールをうまく処理するため〝サーブアンドボレー〟の攻撃テニスが生きてくる。窪田監督の目指すテニスは男子並みの〝攻撃テニス〟であり、この打ち方がそのベースとなるわけだ。

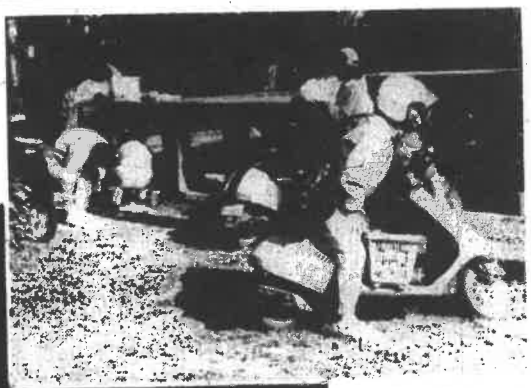
合宿は三週間（一年生は二週間で帰島）。最後の一週間は県外への遠征で試合経験不足をカバーすることにした。熊本、宮崎、長崎、窪田監督の運転するワゴン車で近県の強豪校を転戦、ハードスケジュールでとことん練習試合を行った。熊本信愛女学校、宮崎南など強豪チームを相手に一歩も引かず連戦連勝。合宿の成果があらわれ、選手らの顔も自信にあふれ、秋の新人戦に大きく弾みをつけた。

ついに県一

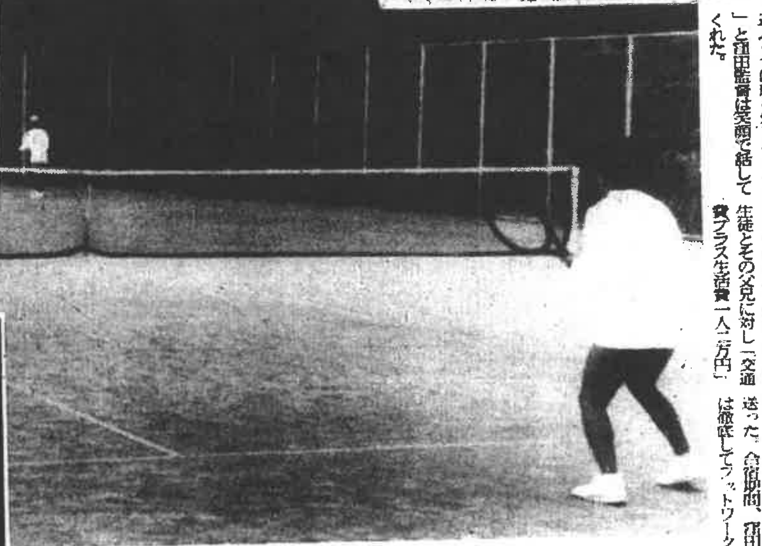
夏の合宿を終え二学期が始まると創部ちょうど一年。同時の新人戦を前に各選手の練習にも身が入った。主力は吉田節子さんをエースとする二年生。その中に一年生の西田貴代さんがめきめきと力をつけて食い込んできた。明るい性格で一年生の中に溶け込み、ムードメーカーの役割を果たしている。

九月二十一日、県立鴨池テニスコートで県新人大会が開幕。団体戦初日、まずまずの滑り出しで勝ちあがっていった与論は二日目の二十二日、鹿屋女子に対し、最終シングルスまでもつれ込む熱戦の末、団体を制した。この試合、第一ダブルスの南・南ペアが0−8で一敗、続く西田・吉田ペアも7−9で落とし、第一、第二シングルスも一勝一敗。最後は主将の池田広美さんが「自分の出来」という試合運びで外園選手を破って嬉しい初優勝。池田さんは「責任を果たせた。嬉しい」と涙をこぼした。それから一か月後、佐賀県運動公園内で行われた全国選抜九州地区予選でベスト8入り。今年三月、福岡で開かれる全国選抜への出場権をあっさりと獲得した。次の目標はインタハイだ。〝夏の甲子園〟にも匹敵する全国の頂点をめざす戦い。まず与論高校は県下一の座をめざすことになる。ガンバレ与論。

←窪田監督。その指導力は定評がある



バイクで練習場に通う部員→



↓恵まれた大金久海岸に近いコート

←〝球ひろい〟も全員の役目

監督の横顔

かつては名サッカー選手

鹿児島市出身。少年期からずば抜けた運動神経を発揮。中学、高校と野球で鳴らしたが、東京オリンピックで観戦したサッカーに感動を覚え、東京教育大ではサッカー部に入部、めきめきと力をつけレギュラーの座を獲得。卒業後、牧園高校で教職をとりながらも教員団でサッカーに没頭。その年の太陽国体に県代表として出場し三位に食い込んだ。

テニスに出合ったのは教[illegible]前任校の鶴丸からテニスの名門校[illegible]高校へ赴任、サッカー部を指導しながら、テニスを見よう見まねでかじり、生徒に挑戦。こてんこてんにやっつけられた[illegible]本格的な練習を開始。三十歳の時に出元町教育委員会へ移ったが、同教委にいる三年間が修業の場となった。ずば抜けた運動神経とサッカーで鍛えた体力。それに人一倍の努力が実り、三十四歳で県のダブルスチャンピオンに就くと、三年連続で王座を守った。

現在は与論町茶花に単身赴任。鹿児島市の自宅では節子夫人と二男が留守を守っている。四十歳。

一言

「学校全体に活気」　榎本校長

創部一年あまりでの県優勝、九州上位入賞、そして全国選抜大会出場を決めた与論テニス部。同部の活躍に学校中がわいた。団体競技としての全国大会出場は大島地区ではハンドボールの大島高（男子）のみ。与論高ではサッカー部が県大会準優勝など活躍しているが、もう一歩のところで全国を逃している。

「島の子は競争心に欠ける」と言われるが、与論テニス部はゲームになると、むき出しの闘志を見せる。この快挙は今後の大島地区の高校スポーツ界に「やれば出来る」という好影響を及ぼすはずだ。

昨春、与論高校に赴任した榎本力校長は「一年目で（テニス部の）快挙に立ち会えたのは栄誉なこと」と語る。校長に語ってもらった。

——町営コートを無料で貸してもらっている与論町には大変感謝している。学校のコートだけではこの成績はなかった。

——生徒が素直で明るく、バイタリティーにあふれている。スポーツに対するセンスと姿勢も素晴らしく、各クラブもテニス部に続いていける。

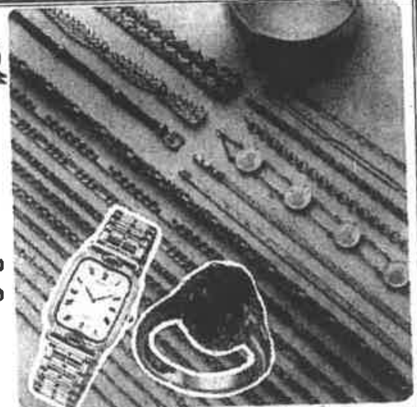
——（窪田監督は）〝愛の指導者〟。技術面で厳しく、精神面ではおもいやりをもっている。よき指導者であるとともに立派な教育者でもある。

——練習では基本を大切にしメニューを次々と考案、三面あるテニスコートをフルに活用し効率的な練習を行っている。テニス部が学校全体に活気をもたらしている。

頌春
旧年中は格別のお引立てを賜り誠にありがとうございます。
当クラブママも創業以来32年を迎えました。これも偏にお客様各位のご支援、ご愛顧の賜ものと、心より深謝申し上げます。
今後も、奄美の社交業界発展のため、微力ながらもなお一層の努力を続けてまいります。引き続きよろしくお願い申し上げます。
1989年 元旦

クラブ ママ
■2F/名瀬市金久町3-11(屋仁川通り)
☎0997(52)0263・(52)5606
パブ ママ
■1F/名瀬市屋仁川通り ☎(53)4855
有限会社 ママ商事
代表取締役 勝 武彦
専務取締役 勝 千代子

頌春1989
おめでとう にこにこセール
初商2日 午前7:00 オープン!
●時計●メガネ
●貴金属●宝石
（いずれもメーカー希望価格より）
20%〜50%OFF
★お買得品豊富に取揃えてありますのでお早目にご来店下さい。
3日・4日 午前9時オープン
メガネ・時計・貴金属・補聴器専門店
株式会社 メガネの小田原
名瀬市末広町3-3（東美本通り） ☎(09975) 2 0626・2 8102



頌春
旧年中はご引立てに預かりありがとうございました。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。
代表取締役 勝 健次郎
専務取締役 時任 繁次
常務取締役 泉田 勝己
取締役 角岡 佑重
農業機械・船舶エンジン・電機製品・販売・修理
明治物産株式会社
本社 名瀬市入舟町3番8号 ☎(52)2511(代)
支店 徳之島・沖永良部・喜界

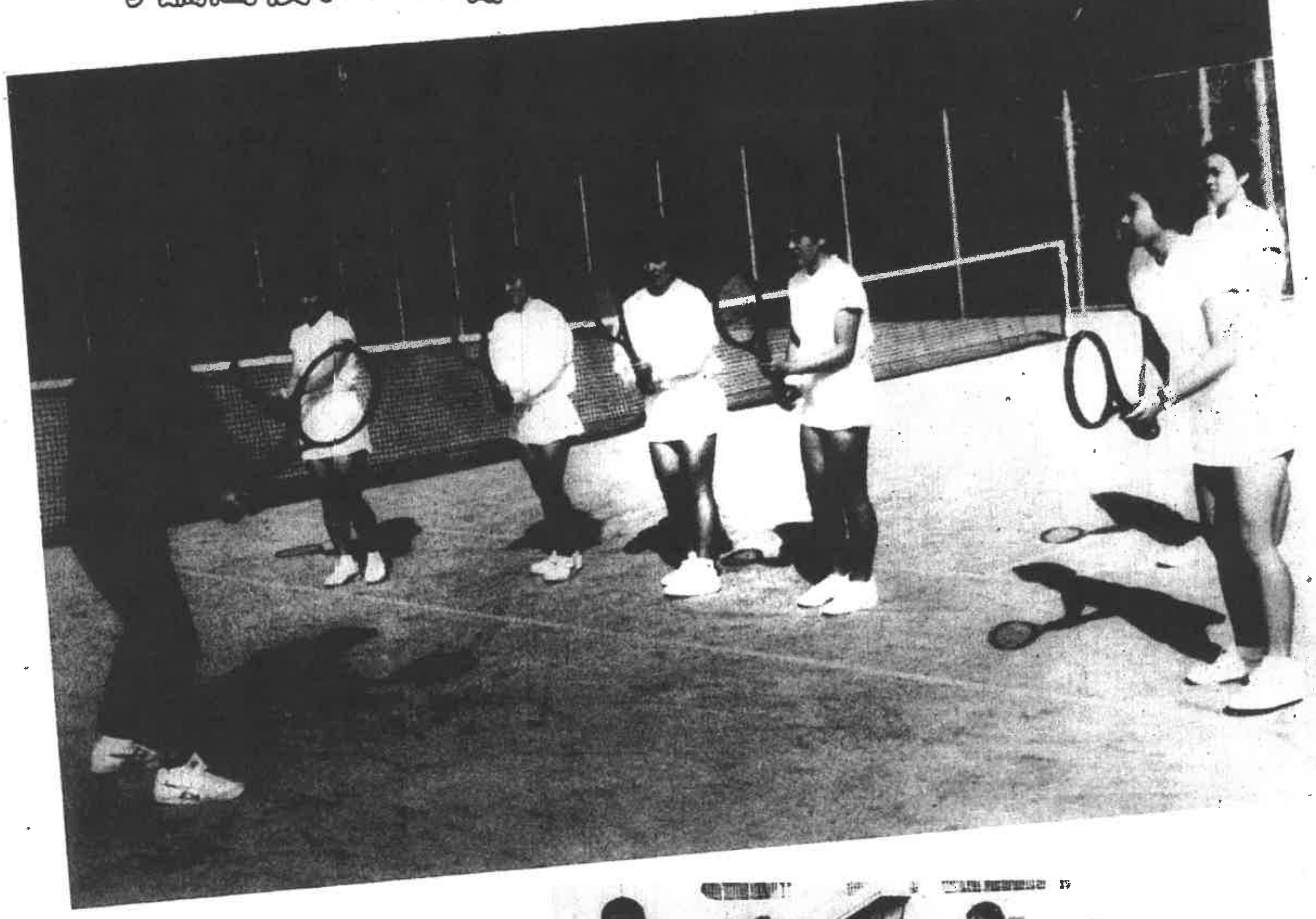
謹んで新年のお慶びを申し上げます
旧年中は皆様の一方ならぬお引立て心よりお礼申し上げます。
本年もなお一層のお引立ての程よろしくお願い致します。
全国クリーニング環境衛生同業組合加盟店
(有)大島ドライ
大島リネンサービス(株)
代表取締役 渋谷安則
本店 名瀬市港町4 ☎(52)5113
小浜工場 名瀬市小浜町5−2 ☎(52)5965
竜郷工場 竜郷町中勝 ☎(62)2434

賀正
旧年中は格別のお引立てありがとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。
食料品卸問屋
窪田商事
代表者 窪田 稔
名瀬市長浜町20−7
☎(52)0628

迎春
名瀬港運協会
(資)叶運輸店 代表社員 恵 俊一
里見海運産業(株) 代表取締役 里見 弘壽
名瀬港運荷役(株) 代表取締役 重田 芳郎
日本通運(株)奄美大島(営) 所長 西園 千尋

与論高校テニス部

小さな高校のでっかい挑戦



たった十一人の部員を引き連れ甲子園で旋風を巻き起こしたのはかつての徳島・池田高校野球部。名門校はどこもスポーツ進学の生徒でマンモス化し、プロ顔負けの設備と指導体制が敷かれ、どこかプロ予備軍養成校の趣の中で、手づくり感覚が新鮮な驚きを与えた。そこには「量」や「質」ではない、スポーツとは本来、〝挑戦心〟なのだという原点を教えられた思いだ。同時に小さな全国の高校生にも「なせば成る」という夢を与えた。

◇　◇

奄美の南端・与論島唯一の高校・与論高校。生徒数わずか三百人のこの高校に女子の硬式テニス部が誕生してまだ二年足らず。だが昨年夏の県大会ではベスト4、続く秋の新人戦では団体優勝、全国選抜大会九州地区予選では七位にくいこみ、あれよあれよという間に全国大会（ことし三月・福岡市）の出場権を手にしてしまった。同テニス部は窪田澄男監督、池田広美主将ら選手部員わずか十四人。窪田監督の赴任いらいグングンと実力をつけ、県下高校テニス界を驚かせている。監督の指導力が選手のやる気に火をつけた格好だが、サンゴ礁のコバルトブルーの海近くの練習場に日参し、めぐまれた自然の中、ひたむきに [illegible] せている。創部二年で〝春の全国大会〟をきめた十四人の女生徒たちの次なる挑戦はもちろん「インタハイ」出場。全国の高校スポーツ界の頂点をめざして、与論高校は一つのクラブの快進撃が学校全体にやる気をみなぎらせている。もちろん父兄や校区民も島をあげて「がんばれテニス部」の熱い声援を送っている。「まぐれ」といわれぬためにも、まさにことし正念場を迎えることになる。

◇　◇

それにしても全般的に沈滞気味な学校スポーツ。練習相手に恵まれない、素質のある生徒の流出、遠征費の負担増と指導者からはいつも同じ〝嘆き節〟がおこるが、問題はすでに指導者そのものにある、といわざるをえなくなりつつある。高校卓球界のエースになった平先太選手や角界にもOBを送り込んだ古仁屋中相撲部、そして今回の与論高校テニス部が教えるように、一人の指導者の情熱がいかに大切か。素質を秘めた子どもたちの才能を開花させ、けっして離島はハンディにならないという文脈のためにも、ことしは指導者そのものに奮起が求められる。高校生、中学生たちの心に灯をともす指導者よもっと熱く燃えろ！

窪田監督の厳しい指導を受ける部員(上)と遠征時の雄姿(右)

大島新聞
元日
第5部

賀
新春のお慶びを申し上げます。

■一月一日　アヤマル岬へ初日バス運行
名瀬発五時四〇分

■貸切バス■定期観光バス
■航空券■旅行業■航空貨物

奄美交通株式会社
名瀬市入舟町九ー一　☎52-3231
航空部　☎52-3220

鹿児島県司法書士会

司法書士倫理綱領

一、司法書士は、国民の権利を擁護し、社会秩序の安定と進歩に寄与する。
一、司法書士は、常に品性を陶治し、名誉と信義を重んずる。
一、司法書士は、正義をもとめ、不正を匡す。
一、司法書士は、法令および実務に精通し、公正誠実に職務を行う。
一、司法書士は、法令および会則を守り、自分の精神を確立する。

迎春

大島支部会員一同（地区別入会順）

名瀬・竜郷・大和・住用地区
神田タツ　山田利光　林　京子　沖島　基　渡辺一馬　大山忠憲　牧之瀬薫　前田為五郎　沖島達郎　清正壮太郎　嘉川敏博　池畑　馨　西田秀美　福山健太

笠利町地区
中　豊重　山野良彦

宇検村地区
嵜島不二夫

瀬戸内町地区
久保成雄　田中有義

喜界町地区
大山　薫　嵜原　清　積　高一

天城町地区
柏　隆徳　森田定次郎

徳之島地区
嵜納　繁　寿　清一　重武哲朗　木下安秀

伊仙町地区
盛本法昌　松井義良　伊地知実嘉

和泊町地区
武田義国　矢野盛久

知名町地区
森元政明　森　康彦

与論町地区
金井清蔵　川畑博道

頌春

旧年中はありがとうございました。今年も「早い・きれい・安い」をモットーに頑張りますので、よろしくお引立て下さい。

成人式・撮影・年の祝出張撮影承ります。

カメラとD・P・E

㈱丹羽写真店
名瀬市末広町7ー11恵ビル1F
〈奄美本通り〉☎52ー2020

迎春

昨年中は格別の御引立にあずかりありがとうございました。
本年も旧に倍しましてご愛顧賜わりますよう
よろしくお願い申し上げます。

東亜観光株式会社
旅行部・不動産部

'89 元旦

代表取締役　中村　一三
名瀬市永田町6番3号TEL(52)3535〜7